

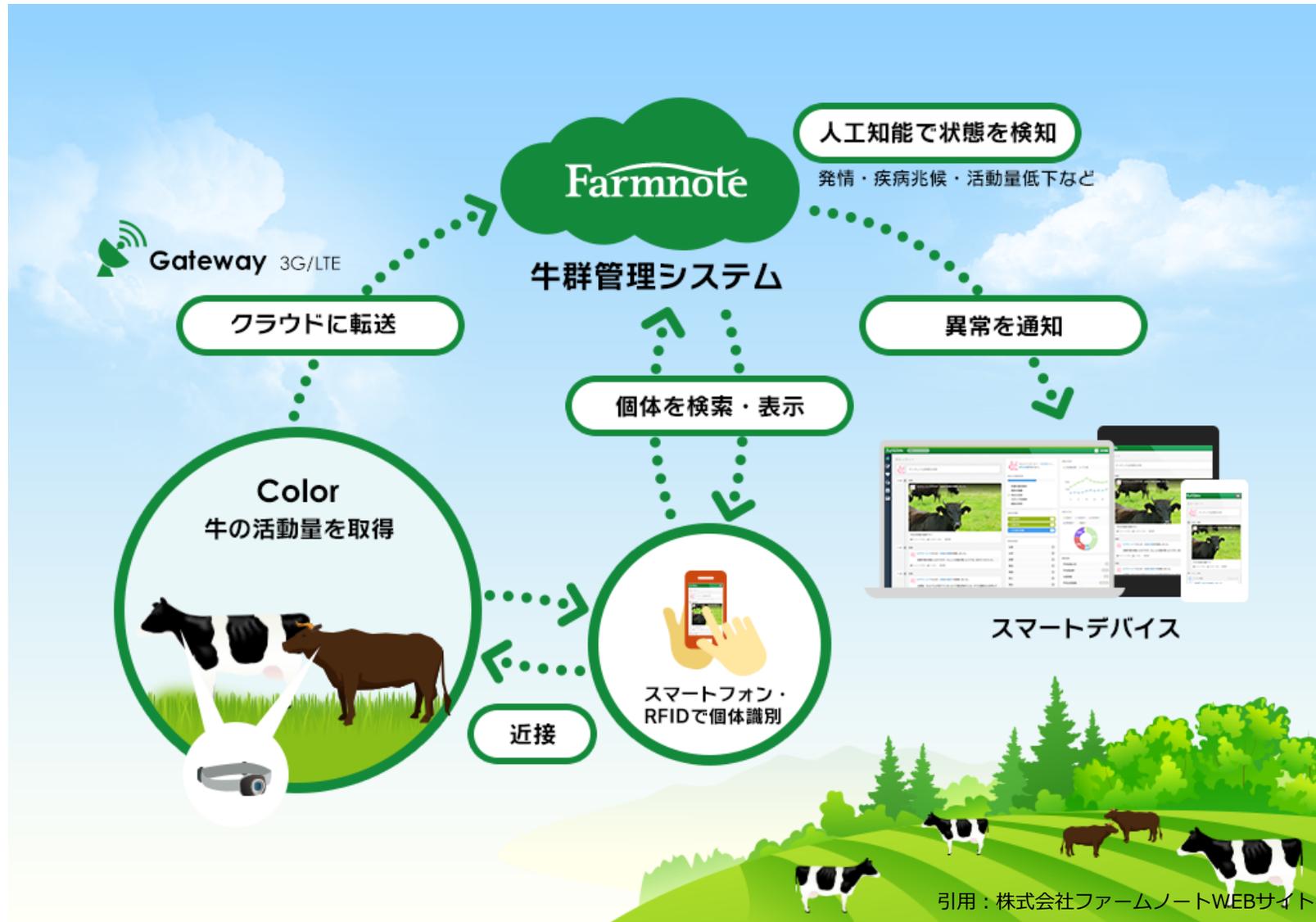
畜産におけるITの活用

畜産におけるIT活用の分類

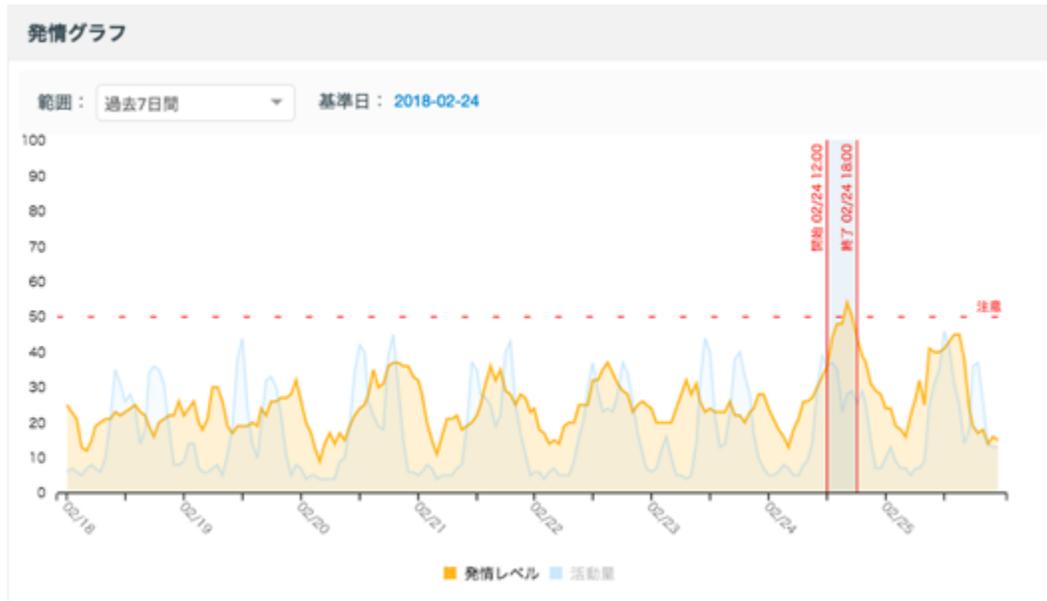
牛	発情管理	牛の発情を検知するIoTソリューション。酪農、肉牛繁殖経営においては発情の見落としは10万円程度の損失となる。
	個体モニタリング	牛個体にセンサーを取り付けることで、個体の異常を早期に検知する
豚	設備・環境 モニタリング	養豚・養鶏においては、個体にセンサーを取り付けることが困難であるため、施設をIoT化し、設備の不良や環境の異常を検知する
鶏		

一般的に、牛 > 豚 > 鶏の順にIT化に取り組みやすいと言える

株式会社ファームノート



株式会社ファームノート



牛の行動をグラフィカルに表示

Farmnote Color (首輪) が取得したデータがグラフに表示され、受精適時がいつなのか、活動量・反芻時間が減っているタイミングがわかる

注意牛を精度よく検出

Farmnoteに保存されている分娩日・乾乳日などのデータと活動データを組み合わせて異常検知に活用できる。

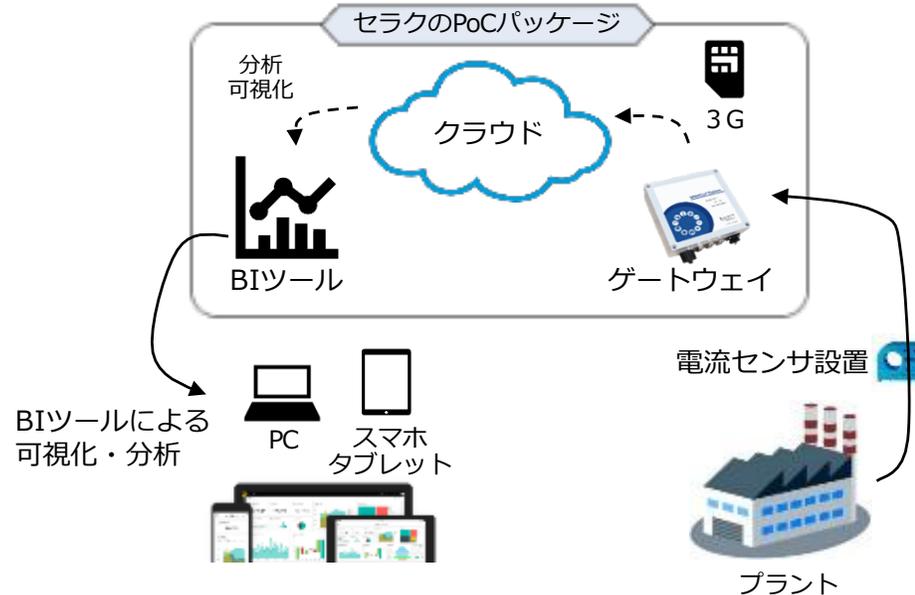
反芻時間や活動量が低下している牛、推定流産牛、推定周産期疾病牛、乳量低下と活動低下による推定疾病牛の検知などが可能。

耳標番号	乳量 (kg)	体細胞数 (千個/ml)	産次	搾乳日数	初回産後日数	繁殖ステータス	Color 発情	Color 発情開始時間	Color 投種適期時間	Color 昨日の反芻時間	Color 発情レベル/今日
2057	54.2	49	2	61	-	フレッシュ	発情	2016/08/04 14:12	-	3.6	67
1774	41.4	10	4	82	-	フレッシュ	発情	2016/08/04 11:35	-	4.12	56
1775	51.9	13	4	66	-	フレッシュ	-	-	-	6.12	31
2324	37.2	21	1	90	-	発情済	-	-	-	7.68	29
1657	50.7	17	4	79	-	フレッシュ	-	-	-	6	28
2041	42.7	11	2	127	-	フレッシュ	-	-	-	9.66	28
1603	51.2	16	5	60	-	フレッシュ	-	-	-	10.04	24
1870	51.6	58	3	58	-	フレッシュ	-	-	-	9.38	21
1468	48.4	13	5	224	79	妊娠鑑定-	-	-	-	-	-
1630	47.9	713	4	73	-	フレッシュ	-	-	-	-	-
1637	44.9	15	4	56	-	フレッシュ	-	-	-	-	-
1728	47.4	8	4	58	-	フレッシュ	-	-	-	-	-
-	49.9	51.5	2.5	69.0	79.0	-	-	-	-	-	38.9

株式会社林牧場・eneco株式会社

(株式会社セラク・株式会社ティーケーネットサービス)

畜産排水処理xIoT



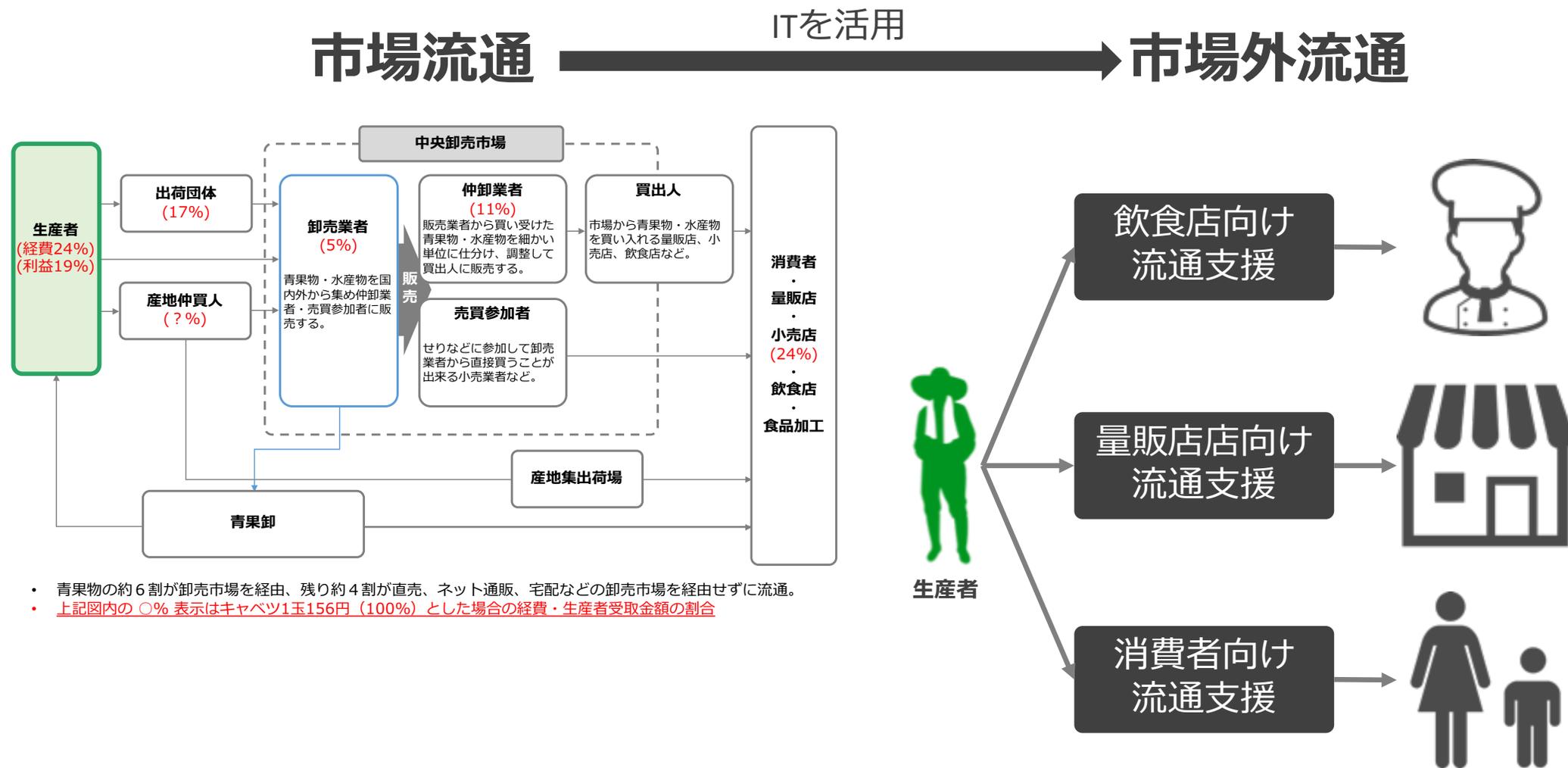
電気料金 -20%
薬剤料金 -50%
トラブル 減少
水質 改善



経営リスクの低下
事業範囲の拡大
管理工数の削減

農産物流通におけるITの活用

農産物流通におけるIT活用の分類



株式会社農業総合研究所

スーパーの店舗内に直売所を設置



農家の直売所事業フロー



生産者メリット

- 販路拡大による所得増加が期待できる
- 品目・規格・数量など自由に決めて生産できる
- こだわりをもって生産した農産物を“顔の見える”形で生活者に届けることができる

スーパーマーケットのメリット

- 産直コーナーを低コストかつスピーディに導入することができる
- 集客効果による店舗全体の売上増が期待できる
- 商品供給、生産者管理、決済業務などの手間を省くことができる

- 生産者から青果物を集荷し、直接スーパーマーケットの店舗に輸送
- 各スーパーに対応したラベルを集荷場で発行可能
- 品目・企画・数量・価格は生産者が決定



生産者の手取り額がアップ



ポケットマルシェ

生産者と消費者を直接つなぐ



- 農家・漁師と消費者がコミュニケーションをとりながら売買ができる
- 農家・漁師から消費者に直送する
- クロネコヤマトと提携することで、安価な送料で利用可能
- 伝票が自動的に届くため、顧客管理の手間が不要
- 全ての作業がスマホで完結
- 手数料は15%のみ

セラクの 今後の取り組み

失敗を防ぐ

負けな**い農業**を実現

データ + AIを活用して
儲かる農業へ

データ分析サービス

過去の栽培状況を比較して
さらなる収量拡大に

病虫害や障害の発生**原因**を**分析・推定**

AIで**収穫量予測の精度向上**



みどりボックス

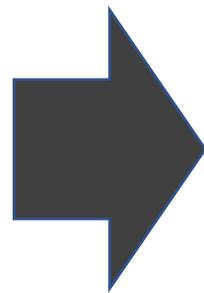


生産者



農業機械など

農業
ビッグ
データの
構築



温室内環境遠隔モニタリングシステム

みどりクラウド

生産支援

- 病虫害予測
- 収量予測
- 栽培コンサル
- GAP取得支援

販売支援

- 実需者マッチング
- トレーサビリティ
- 付加価値向上
- 市場予測

日本農業情報システム協会 について

日本農業情報システム協会（JAISA）

農業情報システムの利活用を促進し、日本の農業の発展に貢献します。
そのために、農業情報システムの普及・啓発を担う人材を育成します。

【目標】

農業者が農業情報システムを選択しやすくなること。

農業者が農業情報システムを利活用しやすくなること。

多様で個性的な農業情報システムが、持続的に提供されるようになること。

日本農業情報システム協会 (JAISA)

- スマート農業相談窓口
- スマート農業に関する講演・研修講師派遣
- 全国各地でのスマートアグリシンポジウム開催



スマートアグリシンポジウム2019

JAISA
スマートアグリ
シンポジウム
2019



定員
200名

参加費
1000円
▼お申込はこちら
<https://everevo.com/event/47130>



日時 2019年3月7日 木
13:30~17:00 (開場 13:00)

場所 日比谷図書文化館コンベンションホール
〒100-0012 東京都千代田区千代田区日比谷公園1番4号

■第1セッション
「スマート農業の過去・現在・そしてこれから」
パネリスト5名とモデレーターによる公開討論会です。
官公庁、流通、小売、農業ITサービス提供者、生産現場等
様々な立場からスマート農業のこれまでの軌跡と現在のスマート農業の立ち位置、
未来の可能性について議論を行います。

■第2セッション
「そこが知りたいスマート農業」
スマート農業の具体的なマネタイズの方法や、現実的なサービスの活用方法など
農業従事者だけでなく一般の方が疑問に感じているトピックについて会場で
リアルタイムにアンケート集計を行い、集計結果についての議論を行います。

主催 JAISA 日本農業情報システム協会
MAIL office@jaisa.org URL <http://jaisa.org> 

2019年3月7日 (木)

13:30~17:00

日比谷図書文化館コンベンションホール

定員：200名

第1部：

スマート農業の過去・現在・そしてこれから

第2部：

そこが知りたいスマート農業